

アイルランドとセント・パトリック十字

連合王国国旗にはアイルランド王国の旗としてセント・パトリック十字旗が取り入れられています。しかし、セント・パトリック十字旗の起源は謎とされています。

このレポートは、「Flags Of The World」のサイトからセント・パトリック十字に関するページ (<http://www.ace.unsw.edu.au/fotw/flags/ie-stpat.html>) を全部翻訳して一部の図版を加えたものです。そのページはすべてアイルランドの旗の研究者である Vincent Morley さんの図と文章によるものです。なお訳注は『リーダーズ英和辞典』（研究社）により記述しました。

2000.7.15 仮説実験授業研究会 丸山 秀一



by Vincent Morley

1782年に連合王国は、アイルランド議会在アイルランドの法を制定する限定的な権限を承認した。その国の法的地位の向上を反映して、聖パトリック勲位（訳注：1788年 George 3世が制定）といわれる騎士の勲位がその後作られた。この勲位の騎士が身につけた勲章には白地に赤のX型十字があった。

1801年に連合王国に加わった後、セント・パトリック十字は、たとえば王認ダブリン学会（=Royal Dublin Society, 訳注：ダブリンはアイルランド共和国およびDublin州の首都）や王認アイルランド医科専門学校（=Royal College of Physicians in Ireland）やクイーンズ大学（=Queen's University Belfast, 訳注：北アイルランドの首都であるBelfast市にある北アイルランド最古の大学；1845年にQueen's Collegeとして設立）や、アイルランド薬学会（=Pharmaceutical Society of Ireland）などで、19世紀の間、様々な専門的あるいは公共的組織によって採用され、それらの紋章や旗で主要部分を占めた。これらの組織は政治的なものではなかったが連合論者（訳注：アイルランド自治案に反対の保守党员）がほとんどであった上流階級から会員を引き抜くことを意図したもので

あった。彼らは、国家主義や革命と結びつけられる「ハーブ」とは違って、セント・パトリック十字を「無難な」国のシンボルとして好いていた。

20世紀におけるセント・パトリック十字の3つの用法については、特に語る価値がある。

1. 「青シャツ党员」（訳注：第1次大戦後のイタリア国民党員も青シャツ党员と言われた。同党は1923年にファシスト党へ吸収された；制服の色にちなむ）として知られる1930年代のファシストの活動では、薄暗い青地にX型赤十字の旗が使われた。これはセント・パトリック十字を使ったものだが、青地に赤のX型十字の模様をセント・パトリック十字と言ったかどうかは疑わしい。このX型十字は、青シャツ党员が着ていた青シャツの胸のポケットにもつけられていた。
2. 国外でプレーするアイルランドのラグビーチームが使うアイルランド・ラグビー・フットボール連盟の旗は、白地に赤のX型十字を置き、X型十字によって仕切られた4つの場所に、4つの地方の楯が一つずつ置かれ、旗の真ん中にアイルランド・ラグビー・フットボール連盟の紋章が置かれていた。



3. ここ数年北アイルランドの独立を主張する者たちによって承認された旗は青地に赤のX型十字である（セント・パトリック十字とセント・アンドリュース十字の組み合わせ）。アイルランド王国（=Ulster 訳注：アイルランド共和国北部3州とNorthern Irelandとを合わせた地域の旧称；旧王国の意味だと思われる。）のX型十字の中心に置かれた「赤い手」には、6稜（北アイルランドの6つの州を表す）の黄色い星が描かれている。この旗の使い方はとても限定的である。すなわち、独立主張派は最近の北アイルランド議会の選挙でわずか0.28%の得票率を得たに過ぎない。

Vincent Morley, 20 January 1997

アイルランドのTnaGテレビ局が昨日（訳注：3月17日）の聖パトリック祭日のパレードのひとつとして、セント・パトリック埋葬の地とされる北アイルランドのダウンパトリック（訳注：北アイルランド南東部 Down 州の州都）での様子を報道していました。興味深いことは、見物人の多くがセント・パトリック十字の旗を振っていたことです。私にとって、破かれたりしていないこの旗が使われているのを見るのは初めてでした。報道はこのことについては触れませんでした。主催者は三色旗（訳注：アイルランドの三色旗のことか）や連合王国旗に関連するような他者を怒らせるような旗を持たずに参加するように

要求したと言っていました。私が思うに、主催者はその主張を強化するのに、広くは用いられなかったと思われる旗を大衆に供給する必要があったのだろう。

Vincent Morley, 18 March 1997

セント・パトリック十字の出所は、白地に赤いX型の十字が勲章に描かれた1783年の聖パトリック勲位ができたときにまでさかのぼることができる。しかしその図柄はどこから来たものか。これについては3つの説が言われている。

・「昔の旗」説

これは、セント・パトリック十字は、昔のしかも一般的ではなかったアイルランドの旗からのものではないかという説である。この説は、17世紀から18世紀の間のいろいろな時期にアイルランド使われた地図や紋章や図面にX型十字があることから支持されている。しかしながら、これらの例は、スコットランドのセント・アンドリュース十字やスペインのブルゴニョ十字で説明する方が簡単である。

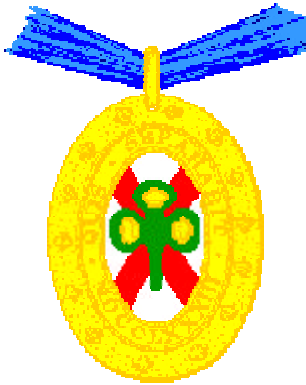
・「レンスター公爵」説

アイルランドの貴族社会で最も位の高いレンスター（訳注：アイルランド共和国南東部の地方）公爵の紋章は、白地に赤のX型十字だった。そして公爵は、聖パトリック騎士の設立メンバーでもあった。この説では、公爵に敬意を払って勲位に彼の紋章を取り入れたことになる。しかし、その当時の資料でこのことを裏付けるものは何もない。

・「聖パトリック祝日記章」説

少なくとも17世紀初頭から19世紀中頃より3月17日の聖パトリック祝日に紙やリボンで作った十字を身につけるのは一般的な風習です。聖パトリック勲位の勲章のセント・パトリック十字は、このよく知られている記章より考え出されたものかもしれません。しかしながら、現存している記章のいくつかはいろいろな色のもので、それはX型十字と言うよりも直立した十字として残っている。

Vincent Morley, 29 May



by Vincent Morley

当時の証拠は、聖パトリック勲位の勲章にX型十字を入れることの提案は、当時のアイルランドの人たちから反発されていたことを示している。1783年2月のある新聞は、「アイルランド人の胸は、彼らの島の守護聖人ではない、血にまみれたセント・アンドリュース十字で飾られるであろう」と不満を掲載した。別の記事では、「スコットランドの守護聖人のセント・アンドリュース十字は、勲位の花形の聖パトリック勲位に入れられることによって名誉を与えた。」と報じ、このことは「国際儀礼と常識に対するあからさまな侮辱である」と書いていました。1783年の時点では、X型十字は、大衆の気持ちとしてはアイルランドともレンスター公爵とも、また聖パトリックとも関係がなかったことがはっきりしています。それならなぜ、聖パトリック勲位の勲章に入れられたのでしょうか。

これはアイルランド総督の聖パトリック勲位の勲章についての公式な記述です。テンプル総督は1783年1月に彼の上官に宛ててこう書いています。

勲章は、我々のモットーである神の言葉「誰が我らを引き離すものか」（訳注：聖パトリック勲位の題銘）と勲位ができた1783年の日付と一緒に、「神の円」を意味するところの、シャムロック（訳注：アイルランドの国章に使われる各種のマメ科植物）のリースが三つ葉で囲まれ、銀箔紋の地にセント・パトリック十字の赤紋とそれぞれの葉に黄金色の英帝国王冠紋がついた三つ葉の緑紋を取り囲んでおります。

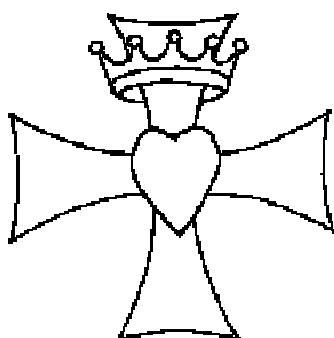
テンプル総督はX型十字をセント・パトリックのシンボルと見なしていたことがはっきりするようです。しかしながら、1783年2月のあるダブリンで発行された新聞に載ったテンプル総督宛の公開書簡で「なぜアイルランド大衆はX型十字が嫌いか」の説明がされています。

アイルランド人が聖パトリック祝日に一般的に使う十字は「Cross - Patee」（訳注：以降「未広がり十字」と訳）という中央が小さくなっていて、端になるに従いとても大きくなるものです。これは「アイルランド十字」というわけではありませんが、ほかの同様の慣行と同じく、十分な権威をもって広く認められてきた、かなりの昔からの習慣です。別の人々の紋章をつけるのは、社交儀礼上も大変不名誉なことと見なされます。それ以上に、その紋章に十字を付けて、名誉を最高の固定位置に戻すべきです。ほかの国の慣習として何年にもわたって認識されてきたものですか？もし十字が一般的に、アイルランドの聖人の紋章をまもっていたのなら、閣下は同意できなかったでしょう。アイルランドを不名誉な観点に陥れることなく、スコットランドが「自分のものだ」と主張してきたものを採用するか、他のものたちは選択を任せております。

私が最初にこの手紙に出くわしたときは、とても驚くとともに少し懐疑的になりました。というのもセント・パトリックと「未広がり十字」との関係は今まで聞いたことがなかったからです。私がアイルランド国立博物館で見た19世紀初頭からの聖パトリック祝日の記章はみんなギリシャ十字、つまり4本の腕が同じ長さで厚さでした。でもつい何週間か前に私は、「未広がり十字」がセント・パトリックと関連がある証拠に出くわしたのです。アイルランド国立図書館で私が読んでいたパンフレットにちょうど一緒に綴じ込んであった小冊子の中にそれを発見したのです。その小冊子は『基本法、法令そして古代の憲法と聖パトリックの親切な兄弟たちの慈悲深い組合』というもので、1763年にダブリンで出版されたものです。「親切な兄弟たち」はダブリンの商人たちによってつくられた相互利益組合で、会員は組合に定期的に会費を支払い、その見返りに財政困難の時に経済的な支援を受けられます。その組合はフリーメーソンのような儀式があり、集会所で組織されています。彼らのルールの一つは、集会所での集まりの際に組合のメダルを身につけることです。その記章は次のように記述されています。

組合の印である金のメダルは、セント・パトリック十字にハートマークを置き、王冠をかぶせたものである。これらがシャムロックのリースか三つ葉で囲まれ象徴的な結び目で飾られ、モットーである「FIDELIS, ET CONSTANS」つまり、忠誠と信条の不変、忠節と友情の言葉が添えられている。

記章は彫り込まれているもので、私が中心部分だけをスケッチしたのが下の図である。



by Vincent Morley

先週はさらにもっと簡単な証拠の発見がありました。中世のアイランド硬貨は、典型的に表に王の頭像と裏にギリシャ十字がついていました。でも 1460~1461 年のファージング銅貨（訳注：英国の小銅貨で 1/4 penny; 1961 年廃止）は、表がセント・パトリックの頭像で、裏に「末広がり十字」がついていたのです。そのコインは Seaby の『アイランドの硬貨とトークン』というカタログの 4399 番に載っています。コイン両面の特徴はともふつうではなく、一緒に起こるというありそうもない偶然の一致です。事実、初期の記念コインとして出現したのであろう。461 年は、聖パトリックの死んだ年と伝えられる日付の一つです。どうも私には、このコインは聖パトリックの 1000 回忌を記念して発行されたように思います。

セント・パトリック十字の起源についての 3 つの説のうち 3 番目の説が正しいものであることは疑いようがない。しかしなぜテンブル卿は「末広がり十字」を X 型十字に取り替えたのであろうか。私が思うに、その決断はひとつの記章に、シャムロックと十字を結びつけたかった結果ではないだろうか。大きなシャムロック（それぞれの葉に王冠を載せるには大きくならざるを得ない）と「末広がり十字」を組み合わせるのは、どちらかが他方を隠してしまうことなしには、可能ではない。しかし X 型十字にシャムロックを重ねるのは、十字が回転されているから、全くのところとても簡単である。この変更がアイランドの大衆を怒らせたとしても、すくなくとも聖パトリック勲位に対して冷笑的な観点を持っていた（彼の私的な書状から引用すると「勲位の道化芝居のナンセンスさ」）英国の総督にとって、おそらくたいしたことのない納得できる変更にはすぎなかったのであろう。

Vincent Morley, 30 May - 1 June 1999

セント・パトリック十字旗の使用が最近の決断の結果、増えてきているようである。アイルランド教会の総会（英国国教会派のアイルランド支部の理事会）は、将来について「特に権威づけられた旗だけが教会に翻る。これらは聖パトリックの旗と英国国教会派の羅針図旗である」と決めた。（『アイルランド・タイムズ』1999年5月19日より）この判断は、教会を政治問題に巻き込むおそれのある連合王国旗の教会での掲揚をやめることを意図したものである。

Vincent Morley, 2 June 1999